

## アマミハナサキガエル

【所 在 地】奄美大島及び徳之島

【種 別】県指定天然記念物

【指定年月日】平成23年4月19日



奄美産褐色型



徳之島産緑色型

アマミハナサキガエルは、奄美大島と徳之島の山地渓流付近に生息する大型のカエルである。スマートな体型をしたカエルで足が長く、強い跳躍力を持っている。

常緑広葉樹の自然林および回復の進んだ二次林内を流れる河川の上流域、およびその周辺の林床で見られ、山間部の森林に覆われた清流の存在が生息に必要な条件と考えられる。雨天時の夜間には、林道に現れる個体をしばしば確認できる。夜間見渡せる道路上に出現する目的は、小動物を捕食する為の摂餌行動と思える。道路面に現れたゲジを追いかけ捕食する個体を観察したことがある。この行動は、他のカエル類と同様の行動である。

カエル類は一般的に地上や水中で確認されるが、本種は木に登る習性もあるようで、樹上で確認されることもある。

分布が奄美大島と徳之島の2島嶼に限られ、固有種であるにもかかわらず、近年の諸開発に伴う森林や草原の消滅・改変により、生息域に縮小傾向が認められている。

アマミハナサキガエルは現在、環境省カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類(VU)、鹿児島県カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類に掲載され、絶滅が危惧されている動物であり、貴重である。